

■■日本現代中国学会ニューズレター第 31 号■■

2010 年 10 月

CONTENTS

- 卷頭言
 - 日本現代中国学会第 60 回全国学術大会のご案内
 - 訃報
 - 日本現代中国学会事務局宛寄贈図書・雑誌
 - 事務報告
 - 日本現代中国学会 2010-2012 年度理事名簿
 - 地域部会活動報告
-

【卷頭言】

日本現代中国学会第 60 回全国学術大会によせて

土田哲夫（中央大学）

日本現代中国学会の第 60 回全国学術大会が、10 月 16 日（土）、17 日（日）に中央大学多摩キャンパスで開かれます。昨年は中華人民共和国の建国 60 年にあたりましたが、今年には本学会にとっても 60 回目の全国大会となります。この間の中国社会の変化と発展はめざましいものがありますが、私たち日本の中国研究、中国観もこの間に大きく変わってきました。

ご存じの通り、戦後、現代中国学会に集った研究者の多くは「新中国」の革命と社会主義建設を積極的に評価し、当時の冷戦に束縛された日中関係を憂えて積極的に発言をしてきました。1950～70 年代初めの全国大会のテーマには、中国の社会主義建設や日中関係にかかわるテーマが並んでいます。しかし、1970 年代、特にその後半以降、日中国交回復と中国の改革・開放への転換に伴い、日本の中国研究でも、中国を革命体制、社会主義国としてよりも、経済的には遅れた発展途上国、近代化の途上にある社会としてとらえる見方が強まってきました。それが、2000 年代以降、中国のめざましい経済成長と軍事的強大化、ナショナリズムの高まり、日中関係の不安定化により、中国のめざましい発展に驚嘆しつつも、その大国化を脅威ととらえる見方も広がっています。

中国はすでに鉄鋼生産、輸出額、外貨準備高など多くの経済指標で日本を抜いており、私たちの生活も大きく中国産品に依存していますが、2010 年にはついに日本を抜いて中国が世界第 2 位の GDP 大国となるだろうという予測は、かなりの衝撃的なニュースとして日本のメディアで報道されました。しかし、私たち中国研究者は、極端な中国脅威論もバラ色の中国発展論でもなく、その光と影の面もともにとらえつつ、巨大な文明圏であり、グローバルに発展する大国である中国を総体として認識するように努めるべきでしょう。

このような問題関心から、今回の全国大会では共通論題を「超大国」中国の光と影」と設定し、10 月 16 日（土）午後にこの共通テーマに関する報告と討論を行うことに致しました。共通論題の後は総会、ついで懇親会を行います。

また 17 日（日）午前は、中国の改革と日本をテーマとする特別分科会（清華大学日本研究センターと共催）、ジェンダー、非正規雇用をそれぞれテーマとする分科会 1・2 を開催致します。また、同日午後を中心に、若手会員を中心とした自由論題報告を 6 つの会場にわ

かれて行います。

このように、今年の大会は土曜午後からの一日半開催となり、日曜は複数企画を同時に実施というやや詰めこんだ構成となります。開催校の授業及び試験の関係上、土曜日に使える施設が限られているためです。ご理解頂けたら幸いです。

中央大学多摩キャンパスは、東京西郊の多摩丘陵に白亜の建物が広がる緑豊かなキャンパスです。朝夕は西方、丹沢山地の向こうに富士山がよく見えます。大学の東門は多摩都市モノレール「中央大学・明星大学」駅に直結し、JR 中央線、京王線、小田急線との接続も便利です。

大会実行委員一同、みなさまの積極的なご参加を得て、充実した学術討論と親しい懇談の機会となりますことを心から願っております。

【日本現代中国学会第 60 回全国学術大会のご案内】

[日時] 2010 年 10 月 16 日 (土)・17 日 (日)

[会場] 中央大学 多摩キャンパス

[交通] 多摩都市モノレール「中央大学・明星大学」駅下車。

詳細はプログラム (別送) 末尾の交通案内をご覧ください。

[資料代] 1000 円

中央大学 大会実行委員会

委員長：斎藤道彦

委員：飯塚容、子安加余子、酒井正三郎、深町英夫、李廷江、土田哲夫

事務局：東京都八王子市東中野 742-1

中央大学経済学部 土田研究室気付

※大会の詳細につきましては、別送のプログラムおよび学会ホームページ (<http://www.soc.nii.ac.jp/jamcs/20100921.pdf>) をご覧ください。

※10 月 16 日 (土) 午前に全国理事会 (2008-2010 年度、2010-2012 年度) を行いますので、理事の方はご出席下さい。

【訃報】

吉田鐵也会員 (関西外国語大学国際言語学部)

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

【日本現代中国学会事務局宛寄贈図書・雑誌】

- ・倉田徹「中国返還後の香港」名古屋大学出版会、2009. 11
- ・安富歩・深尾葉子『「満州」の成立』名古屋大学出版会、2009. 11
- ・工藤貴正『中国語圏における厨川白村現象』思文閣出版、2010. 3
- ・川本皓嗣・上垣外憲『一九二〇年代東アジアの文化交流』思文閣出版、2010. 5

*以上の寄贈本は元編集委員長宛に送られたため、掲載が遅れました。今後、寄贈図書は事務局に送付するようお願いいたします。

- ・大野俊編『メディア文化と相互イメージ形成』九州大学出版会、2010.3
- ・小川全夫『老いる東アジアへの取り組み』九州大学出版会、2010.3
- ・国吉澄夫・張季風編『広がる東アジアの産業連携』九州大学出版会、2010.3
- ・福田晋編『東アジアにおける食を考える』九州大学出版会、2010.3
- ・柳哲夫・植田和弘編『東アジアの越境環境問題』九州大学出版会、2010.3
- ・アジア経済研究所『アジア経済』2010年8月号まで
- ・『九州大学アジア総合政策センター紀要』第5号（2010年6月）

【事務報告】

日本現代中国学会 2010 年第 2 回常任理事会議事録

[日時] 2010 年 7 月 17 日（土）14:00～17:00

[場所] 東京大学（本郷） 東洋文化研究所 405 会議室

[出席者] 佐々木信彰理事長、村田雄二郎副理事長、瀬戸宏事務局長、高見澤磨関東部会代表、辻美代関西部会代表、新谷秀明西日本部会代表、山本真編集委員長、加茂具樹広報委員長、菅原慶乃会計委員長

[欠席者] 大西広企画担当理事、石塚迅幹事（ニューズレター編集）

●報告事項

1. 経過報告（事務局）

瀬戸事務局長より以下の報告があった。

- ・『新中国の 60 年』…創土社からの連絡では、2010 年 7 月 16 日現在売り上げ 566 部（書店 466 部、直売 100 部）。書評は『東方』2010 年 2 月号（梶谷懐会員執筆）、『中国研究月報』『現代中国』にも掲載予定。

- ・理事選挙は 6 月 20 日に締切られ、136 人が投票（前回は 123 人）。無効は 2 票（締切後到着）。

新理事はニューズレター本号に選挙・推薦理事を問わず地域部会別五十音順に一括して発表（別項参照）。

- ・地域研究会連絡協議会（JCASA）の求めにより、瀬戸事務局長が同協議会ニューズレター第 3 号（2010 年 3 月）に現中學會紹介の短文を寄稿した。

2. 会計報告

菅原会計より、会計の現状について報告があった。7 月 13 日現在の会員数は 711 人だが、未納 4 年会員が 18 人おり 9 月初めの最後の督促に応じない場合は 9 月末で除籍になることが報告された。この件について意見を交換し、常任理事が面識のある未納者・住所不明者に会費納入、転居通知などをするよう働きかけることとした。

3. 編集委員会報告

山本編集委員長より『現代中国』第 84 号は順調に編集が進み、予定した原稿はすべて集まったとの報告があった。

4. 広報委員会報告

加茂広報委員長より、学会 HP、ニューズレターを順調に管理・発行しているとの報告があった。

5. 地域部会報告

・高見澤関東部会代表より、5月15日に関東部会2010年度春季修士論文報告会が行われ約30名の参加者で有意義な討論が行われたことが報告された。

・辻関西部会代表より、6月5日に2010年度関西部会大会が行われ、約90名の参加で活発な討論が行われたことが報告された。

・新谷西日本部会代表より、5月29日に西日本部会2010年度研究集会が行われ40名程度の参加で有意義な討論が行われたことが報告された。新谷代表が9月より在外研究に出るので、西日本部会理事会で通山理事が後任として西日本部会代表に選出されたことが報告された。

6. その他

特に報告はなかった。

●協議事項

1. 『現代中国』投稿規定改定

山本編集委員長より、主に研究ノートの扱いに関する投稿規定改訂案および技術的な原稿執筆要領改訂案が提案された。討議の結果常任理事会として承認し、今秋発行の第84号に掲載（第85号以降適用）するとともに、理事会に事後承認を求めることを確認した。

2. 本年度全国大会

土田大会実行委員より、全国大会の準備状況について詳細な報告があった。共通論題企画文書は8月10日前後をメドに常任理事会MLに流し、常任理事会として確認することとした。大会援助金を35万円とすることを決定した。

3. 『資料・日本現代中国学会の60年』（仮題）

担当の瀬戸事務局長より準備状況について報告があり、意見を交換した。学会の声明などは原則としてすべて収録し、印刷した冊子体で発行し、非売品・全会員配布・PDF版学会HP掲載とすることを確認した。

4. 来年度全国大会

瀬戸事務局長、辻関西部会代表より、過去20年間大会を開催していない、複数の会員がいる、を基準に開催校を探しており、全国大会までには決定できる見通しであることが報告された。（その後、近畿大学より来年度開催校を引き受けてもよいとの回答があった。10月の理事会・総会で決定する）

5. 理事長選挙内規案

組織検討委員会原案について検討し、理事長候補者について規約との整合性から、選挙理事ではなく理事と改訂することを決定した。理事会で正式決定するが、今回の理事長選考はこの原案に基づいて行うことを確認した。

6. 全国学術大会規程案、全国学術大会企画委員会規程案

組織検討委員会の原案を承認した。

7. 太田勝洪記念中国学術賞（太田賞）

各地域部会から討議状況が報告され、中国研究所の意向も踏まえ、現中学会の推薦は単年度ごとに『現代中国』掲載論文を対象とすること、候補作の選考もこれまで通り編集委員会とすることを決定した。

8. 理事定数見直し

高見澤関東部会代表より、関東部会割り当てを5名減らし関西部会に回したい旨が表明され、意見交換した。新たな地域部会創設も話題にのぼった。定数見直しは理事会承認が

必要なため今後さらに検討することとした。

9. 次期理事会体制

理事長選挙内規案に基づき、次期理事会体制について意見を交換した。

10. その他

加茂広報委員長より、HP 作成ソフト購入が提案され、学会 HP のあり方・管理運営について意見を交換した。

【日本現代中国学会 2010-2012 年度理事名簿】

*開票は常任理事会翌日の7月18日。開票したところ、無効票(表封筒に氏名を書かない)が1票あった。1封筒に2票同封したもの(家族会員と思われる)があったが、有効とした。そのため投票総数は136票で変わらない。

第25位に3名の同数得票者がいたが、第2回常任理事会で確認された理事長選挙内規案(理事会で正式決定)では選挙理事と推薦理事を区別しないことになったため、当選者は27名とした。当選者のうち西村成雄会員より後進に道を譲るため辞退したいとの申し出があり、当選者(選挙理事)は26名となった。その後、地域部会別に推薦理事24名を9月上旬までに決定し、新理事は下記の通り確定した。

(地域部会別五十音順)

●関東部会 (30名)

青山瑠妙(早稲田大学)、阿古智子(早稲田大学)、家近亮子(敬愛大学)、石塚迅(山梨大学)、伊藤徳也(東京大学)、内田知行(大東文化大学)、大里浩秋(神奈川大学)、奥村哲(首都大学東京)、加茂具樹(慶應義塾大学)、川島真(東京大学)、国分良成(慶應義塾大学)、小嶋華津子(筑波大学)、坂元ひろ子(一橋大学)、佐治俊彦(和光大学)、佐藤普美子(駒澤大学)、白水紀子(横浜国立大学)、鈴木賢(北海道大学)、園田茂人(東京大学)、孫安石(神奈川大学)、高原明生(東京大学)、高見澤磨(東京大学)、田島俊雄(東京大学)、趙宏偉(法政大学)、土田哲夫(中央大学)、中村元哉(津田塾大学)、丸川知雄(東京大学)、宮尾正樹(お茶の水女子大学)、村田雄二郎(東京大学)、山本真(筑波大学)、若林正文(早稲田大学)

●関西部会 (15名)

宇野木洋(立命館大学)、大西広(京都大学)、加藤弘之(神戸大学)、北川秀樹(龍谷大学)、巖善平(桃山学院大学)、黄英哲(愛知大学)、佐々木信彰(関西大学)、砂山幸雄(愛知大学)、瀬戸宏(摂南大学)、田中仁(大阪大学)、辻美代(流通科学大学)、日野みどり(金城学院大学)、福家道信(近畿大学)、松村嘉久(阪南大学)、三好章(愛知大学)

●西日本部会 (5名)

岩佐昌暉(熊本学園大学)、小竹一彰(久留米大学)、新谷秀明(西南学院大学)、通山昭治(九州国際大学)、松岡純子(長崎県立大学)

【地域部会活動報告】

●関西部会

2010年度関西部会大会を開催しました。

[日時] 2009年6月5日(土) 9:30~17:50
[場所] 摂南大学大阪センター(学校法人常翔学園大阪センター)
[プログラム] 日本現代中国学会ニューズレター第30号に掲載。

●西日本部会

2010年春季研究集会を開催しました。

[日時] 2010年5月29日(土) 13:00~18:00
[場所] 西南学院大学 学術研究所大会議室
[プログラム] 日本現代中国学会ニューズレター第30号に掲載。

日本現代中国学会事務局

〒166-8532 東京都杉並区和田3-30-22
大学生協学会支援センター内 日本現代中国学会事務局
TEL: 03-5307-1175 FAX: 03-5307-1196
genchu@univcoop.or.jp
郵便振替: 東京 00190-6-155984

広報委員長: 加茂具樹(慶應義塾大学) ニューズレター編集: 石塚迅(山梨大学)
日本現代中国学会HP: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jamcs/index.html>